

令和5年度 自己評価結果公表シート

I.教育目標

【自ら元気いっぱい活動し合う子を育成する】

具体的な子ども像

【つよい子】【かしこい子】【やさしい子】

II.本年度に重点的に取り組む目標・計画

- ① 物を大切にし、進んで片付けの出来る子どもを育てる
- ② 自然に親しみ豊かな直接体験をさせる
- ③ 安全管理の徹底に努める

III.評価項目の達成及び取り組み状況

重点目標	評価項目	評価	取り組み状況
物を大切に し、進んで片 付けの出来 る子どもを 育てる	園庭や室内に置い て、子ども達が進 んで片付けたくな るような環境を整 備・構成する	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎日同じ時間に片づけをすることで、子ども達が少しずつ片づけの時間を意識出来るようになった。また、「長い針が〇の所で片付けをする」という声かけも効果的だった。 ・進んで片づけをする子としない子に差がある。(多数意見) ・玩具箱(ままごと)に写真が貼ってあると、片付けがスムーズになり、自ら進んで箱に仕分けする姿が見られた。ブロックの箱にもあるとよい。 ・玩具箱自体がとりあえずのダンボールだったり、割れたりしていて機能的ではない。 ・絵本をスムーズに片づけられるよう絵本棚の整理を細めにしていた。 ・学期ごとに本棚を整理し、破けている本を修理し、修理できない本を処分している。 ・絵本棚にある絵本が多すぎて片付けしにくい状態になっていた。 ・職員一人一人が自分の机や玩具を片付けることで少しづつ気持ちの良い環境になると思う。 ・押し入れにある玩具が整理されず把握できていなかったり、使用後不要になった物が置きっぱなしになっている。
自然に親し み豊かな直 接体験をす る	園内や地域の自然 環境を見直し、積 極的に保育に取り 入れる	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育活動が詰まっていて、散歩に行ったり動植物を観察する機会を設けることが難しい。 ・お散歩カードを季節ごとに行い、自然に触れられるように取り組んだ。 ・職員間の情報共有があまり出来なかった。 ・園庭の木の実や葉を集めて、おままごと等遊びに使う姿が見られた。 ・椿やコスモスなど季節に合わせた身近な植物の名前を教えることで、子ども達はより植物に興味をもったようだった。 ・園外保育の計画が一年を通して少なかった。天候により実施できないことも考えて予備日を設定したり、臨機応変に予定の変更を行うべきだった。

			<ul style="list-style-type: none"> ・夏の水遊びでは、のびのびと楽しそうに泥あそびをする姿がたくさん見られた。 ・メダカの水替えも率先して手伝ってくれるようになった。 ・雨や氷についての絵本を読み聞かせすることで、職員も新しい知識を得ることができた。
安全な園生活を送るためにあらゆる手立てを講じる	安全な園生活を送るためにあらゆる手立てを講じる	B	<ul style="list-style-type: none"> ・室内での過ごし方について繰り返し声掛けすることで、危ないことをしている時に子ども達同士で注意したり、職員に知らせたりする姿が見られた。 ・園内外の危険であろう場所を職員間で共通理解し、事前に子ども達に話したり、対処しておくことで未然に防げたこともあった。気付いたらすぐに対処することが大事だと思った。 ・避難訓練において、津波に関しても考える機会を設けることができた。 ・避難訓練は、決められた内容で行っているのですが、内容の見直しや様々な状況を想定しての訓練をするとうい。毎月行うので、子ども達は落ち着いた避難が出来るようになっている。 ・地震に関しては、特に子どもはイメージがしにくいと思うので、紙芝居等を各クラスでどんどん読んだ方がいいと思う。

IV.総合的な評価結果

評価	理由
B	各教職員自らが、評価項目について積極的に取り組む姿があった。職員の日々の取り組みが定着したことで、職員・子どもの姿に変容が見られ、目標達成へ近付けた。

III.IV.の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	あまり達成されなかった
D	ほとんど達成されなかった

VI.学校関係者評価委員の評価

◎自己評価結果の内容は、妥当であると認められる

・「R5 自己評価結果の総括表」、「全方位的な自己点検表」及び「保護者アンケート結果」をもとに、総合的な評価をすると3つの重点目標について、それぞれ概ね妥当な評価が行われている。